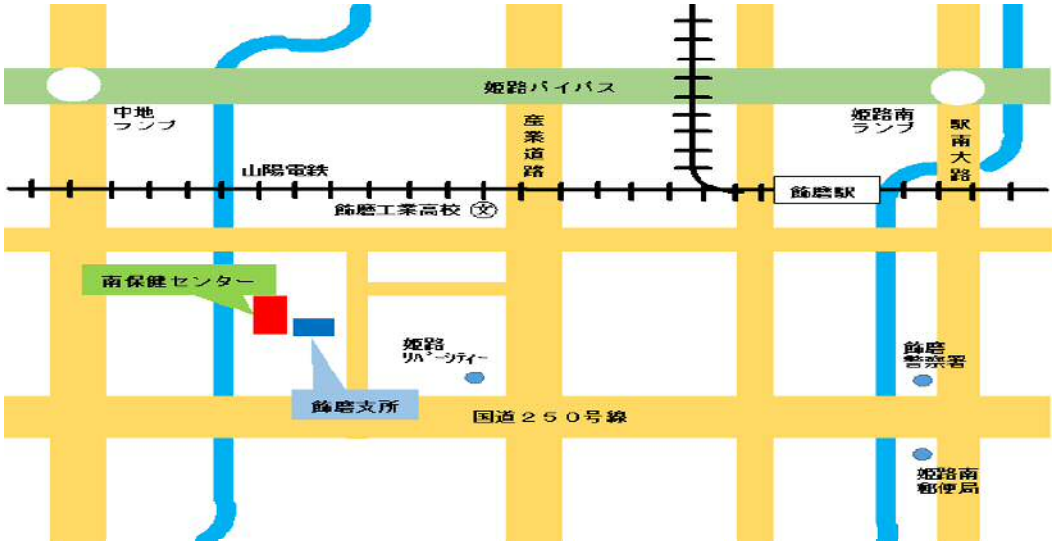
地域包括支援センター適正運営評価　基本調査票

【地域包括支援センター概要】

センター名称	姫路市飾磨地域包括支援センター
法人名	社会福祉法人　姫路市社会福祉協議会
所在地	〒672－8064 姫路市飾磨区細江2655番地(南保健センター内)
電話	079－231－4302
FAX	079－235－0401
ホームページURL	https://www.himeji-wel.or.jp

【センターの案内】

センターまでの交通手段	山陽電車網干線「飾磨駅」下車徒歩11分・姫路駅南口―姫路港「飾磨工業前バス停」下車徒歩5分・姫路駅南口―姫路港「飾磨支所前バス停」下車徒歩6分：姫路駅北口―思案橋「思案橋東口バス停」下車徒歩6分



【センターが所在する地域の特徴・特性】

姫路市の南部に位置し、担当校区は飾磨・高浜・妻鹿です。
飾磨校区の高齢者人口は3，941人高齢化率は25．7％。生活圏域に警察署や消防署、郵便局、病院、支所や保健センターがあり、市内でも中核的な校区です。
高浜校区の高齢者人口は2，523人で高齢化率は17．7％。新興住宅地が増え、出生数・児童数が多い地域と高齢化が進んでいる地域が混在しています。
妻鹿校区の高齢者人口は1，333人、高齢化率は31．6％。スーパーマーケットや病院は少ないが、昔ながらの小売店があり地域の良さが残っています。
それぞれの地域の特性は違うが、祭り等で地域の団結力があり、自治会や民生委員、生涯クラブ等ボランティアの組織が強く、見守りネットワークやふれあいサロン・ふれあい食事サービス等の活動が盛んに行われています。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

・ふれあい食事サービスには毎月担当職員を決めて参加し、地域行事にも積極的に参加しています。
・自治会会長や民生委員、地域のボランティアとは顔の見える関係が形成されており、何かあれば相談してもらえる体制が出来ています。
・年3回発行しているほうかつだよりは、警察や消防・病院や銀行・スーパーマーケット等90か所の事業所に持参し、地域包括支援センターの啓発と情報交換を行っています。
・生活支援体制検討会議は、担当圏域の全地域包括支援センターエリアで継続開催出来ています。
・いきいき百歳体操は、担当校区で29か所、認知症サロンは10か所開催されています。
・職員間で情報共有を行い、地域課題の把握と、多職種連携を図っています。

【令和5年度末の担当圏域の目指す姿】

・全校区の概ね全町で高齢者の通いの場が出来ており、地域の高齢者が役割や生きがいを持ち、地域活動に参加する事が出来きます。
・全校区の住民が地域包括支援センターの役割を知っています。
・すべてのケアプランにインフォーマルの視点が入っています。
・認知症サポーター養成講座受講者が、各地域で認知症サポーターの役割を担います。

地域包括支援センター適正運営評価　評価意見書（総評）

センター名称	姫路市飾磨地域包括支援センター
評価調査者名	山本礼子　竹中啓介　藤井明美

【第三者評価で確認した特徴的な取り組み、工夫点】

地域への顔の見える関係性づくりを大切にされており、総合相談を円滑に進めるため全職員で学習会開催されています。インフォーマルな社会資源を活用し、引きこもりや気になる方への早期発見に向け情報共有を地域ごとで行えており、サポート体制がしっかりとなされています。また、複雑な困難ケースについては、同じ建物内にある保健センターと連携し、必要に応じて医療・介護サービスに繋げておられます。支え合い会議の開催の要望があれば、小さな問題でも開催されるほか、地域住民が安心して暮らし続けることのできる体制づくりがみられました。

【第三者評価で確認した次のステップに向けた気づきや取り組みを期待したい点】

職員の定着並びに人員の確保を図り、各専門職の経験を活かして更に質の高いサービスを地域に向けて提供していただくことを期待します。また、地域住民との顔の見える関係性づくりを継続し、敷地内の児童センターと色々な世代間との交流のできる新しい取り組みにも期待したいです。各種関係機関との連携体制の構築以外にも、認知症となっても活躍できる場所や認知症の人の落ち着ける居場所づくりや新たな役割づくりの場を提供することのできる支援に期待したいです。

【市民(住民)からの意見やコメント】

児童センターとの連携も含め、飾磨という地域性を活かし、色々な世代間との交流のできる新しい取り組みも期待します。

【評価結果に対する地域包括支援センターのコメント】

今まで取組んできたことを認めて頂き、職員一同励みになりました。
第三者評価を受けたことで、日頃の業務を振り返り、見つめ直す機会となり、改めて業務の目的について考え・今後の方向性や課題について気づきを得る機会となりました。
今後も、地域住民との顔の見える関係性を継続し、多世代との連携も視野に、各種団体とも、より一層連携を図りながら、地域包括ケアシステムの深化に向け、取組んでいきたいと思います。

令和5年度姫路市地域包括支援センター適正運営評価調査票

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="8">評価項目・着眼点</td><td colspan="2">地域包括支援センターの体制確保</td></tr>
<tr><td colspan="2">（基本的な考え方）
地域包括支援センターは地域包括ケアシステムのコーディネーターとして、高齢者分野の困りごとを地域で受け止める役割を果たすものであり、地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割として地域で認識されることが必要です。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">①</td><td>地域包括支援センターの周知</td></tr>
<tr><td>地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割を持っていることを地域で認識されるようになる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td>専門性を生かした地域包括支援センターの運営</td></tr>
<tr><td>専門知識、対応力を備えたセンターのスタッフの確保と人材育成を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">③</td><td>地域包括支援センターの業務の効率化に向けた取り組み</td></tr>
<tr><td>オンラインミーティングをはじめとする業務のICT環境の整備やや事業の整理・統合など、業務の効率化に向けた取り組み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">センター記入欄</td><td>取り組みの状況</td><td colspan="2">毎月１回各校区で開催のふれあい食事サービスに各専門職が交代で出向き、地域住民や自治会会長・民生委員などに、地域包括支援センターの役割について啓発を行っています。
今年度から、地域包括支援センターに勤務して３年未満の職員に対して、先輩職員が交代で各分野についてミニ講座を実施しました。ミニ講座を実施することで、先輩職員も知識の再確認を行うことができ、また若手職員の未経験分野の把握や不安な業務について確認することができました。</td></tr>
<tr><td>現在課題と感じていること</td><td colspan="2">地域包括支援センターでの勤務歴が短い職員の割合が高い一方で、地域活動や総合相談の件数も増えており、業務を覚えながらの実践となるため、目の前のことで精一杯になり抱え込んでしまう恐れがあります。</td></tr>
<tr><td>目標達成のための今後の取り組み</td><td colspan="2">職員が不安を抱え込まずに安心して業務できるよう、報告・連絡・相談を重視し、互いの業務の進捗状況の共有します。ケース検討や話し合いの際には、一人一人が専門性を活かしたサポーティブな態度での発言に努めます。職員同士が育ち合える職場環境を目指します。
業務を進めていく上では、その目的や各業務の連動性を理解し、業務の効率化を意識した取り組みをすすめます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価調査者記入欄</td><td>評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点</td><td colspan="2">毎月各校区へのふれあい食事サービスへの参加や、年3回発行する包括だよりを関係機関へ配布するなど、地域への顔の見える関係性づくりを大切にされていることがうかがえました。また、経験年数の浅い職員が多く所属されていることから、先輩職員が、苦手分野や業務に不安と感じるところを伝達する学習会を設けることで、地域包括支援センターの業務を円滑に進め、働きやすい職場づくり並びに環境づくりへの取り組みがうかがえました。</td></tr>
<tr><td>次のステップに向けた気づきや期待したい点</td><td colspan="2">職員の人員不足や欠員を防止し、今いる職員の定着並びに人員確保を図ることを目的に、不安や不満が出ないよう職員間の会話を充実するとともに、お互いの業務にも関心を持ちながら、各専門職の経験を活かして更に質の高いサービスを地域に向けて提供されることに期待したいです。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="5">評価項目・着眼点</td><td colspan="2">基本目標1：生きがいを感じながら暮らすための支援の充実</td></tr>
<tr><td colspan="2">（基本的な考え方）
人生100年時代、介護予防に努め、いつまでも自分らしく、生き生きと暮らすことが大切です。そのために、身近な地域活動への参加を増やし、継続することが必要となります。その生活スタイルを周知するとともに、地域活動の場へ通い続けることができる環境づくり、地域で役割をもって暮らすための地域づくりに取り組みます。</td></tr>
<tr><td>①</td><td>介護予防に関する認識の変革</td></tr>
<tr><td></td><td>85歳以上の高齢者に対し、「通いの場」である「いきいき百歳体操」と「認知症サロン」への参加促進を行い、フレイル予防につなげる。
市民向け講座などでフレイル予防に関する啓発・周知を進めフレイルの危険因子を持つ人等を早期に発見する取り組みを進める。</td></tr>
<tr><td>②</td><td>高齢者が通える場があるまちづくり</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>介護予防への意識が高くない高齢者を通いの場に誘導するとともに、フレイル等で通いの場への参加が中断することを予防するための取り組みを充実させる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">センター記入欄</td><td>取り組みの状況</td><td colspan="2">いきいき百歳体操の実施一覧をチラシで地域住民に周知しています。高齢者が集まる機会に積極的に出向き、全職員で社会参加を継続することがフレイル予防になることを伝え、通いの場への参加・継続について啓発を行っています。総合相談での対応時にも、必要に応じて、通いの場への参加を促しています。現在通いの場に参加している住民や世話人より、通いの場への参加やフレイル予防の重要性を未参加の住民に発信してもらえるように、日々啓発を行っています。</td></tr>
<tr><td>現在課題と感じていること</td><td colspan="2">開始からの年数が長くなり、通いの場の世話人・参加者の高齢化が進み、身体状況の変化や入院などをきっかけに、継続参加が難しくなり欠席・離脱される方もいます。また、85歳以上の方の参加割合が高くなり、世話人の交代が難航している会場もあります
自治会・老人会などの組織に参加していない方の通いの場への参加が少なく、また組織に所属してない方が参加できる通いの場が少ない状況です。</td></tr>
<tr><td>目標達成のための今後の取り組み</td><td colspan="2">通いの場に、新しい参加者や75歳までの前期高齢者など若い世代の方にも参加してもらえるような体制作りについて、生活支援体制検討会議の場なども活用し、地域住民と話し合いを進めていきます。自治会や老人会などに所属していない方など、誰もが参加できる通いの場を増やす取り組みや周知を行っていきます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価調査者記入欄</td><td>評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点</td><td colspan="2">フレイル予防の一環として、外へ出て行くことの大切さを周知される以外に、地域の世話人や地域でも特に意識の高い住民へ声がけし、インフォーマルな社会資源を活用することで、引きこもりや体調の変化など早期の気付きや情報共有が行えています。また、見守りくださる地域住民へ感謝をお伝えされることで、やりがいと生きがに繋がる取り組みや工夫がみられました。</td></tr>
<tr><td>次のステップに向けた気づきや期待したい点</td><td colspan="2">通いの場所から足が遠くなっておられる方への開催場所を増やす取り組みや、老人会に入られていない方や閉じこもりの方への声がけの継続ができるよう、地域住民との顔の見える関係性づくりを更に深めていただきたいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="5">評価項目・着眼点</td><td colspan="2">基本目標2：困りごとを地域全体で受け止める体制の構築</td></tr>
<tr><td colspan="2">（基本的な考え方）
日常生活圏域単位に市民に身近な場所への地域包括支援センターの設置を継続し、地域の高齢者、その介護者の生活スタイルに対応できる相談体制の強化を行います。困りごとを抱える高齢者やその家族への支援を行う中で、地域共生社会の実現に向けて、他との連携を進めていきます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">①</td><td>地域包括支援センターの相談機能強化</td></tr>
<tr><td>地域包括支援センターの専門性を活かした相談機能を強化する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td>世代や分野を超えた地域のつながりの構築</td></tr>
<tr><td>地域共生社会の実現に向け他分野との連携を強化する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">センター記入欄</td><td>取り組みの状況</td><td colspan="2">電話・来所・訪問で相談を受け付けています。相談を受理した後は、地域包括支援センターの職員の中で対応方法を検討し、専門性を考慮した上で相談の対応をしています。圏域外の相談も多いので、担当の地域包括支援センターに引継いでたらい回しにならないようにしています。保健センター内に事務所があるので保健センターに相談がしやすく、精神疾患や引きこもり等の支援は保健センターの職員と一緒に対応しています。</td></tr>
<tr><td>現在課題と感じていること</td><td colspan="2">障害や生きづらさを感じている子を世話する親が、高齢化や疾病により世話ができなくなっている事例が増えています。そのような世帯には、介護や経済、家族関係等複合的で多くの課題があります。その課題を整理し、他機関と役割分担をして対応していますが、課題解決までに時間を要しています。</td></tr>
<tr><td>目標達成のための今後の取り組み</td><td colspan="2">保健センターや相談支援事業所、また社会福祉協議会等と一緒に相談対応をすることで、お互いの役割について理解を深めながら世帯を一体的に支援をしていきたいと思っています。民生委員や自治会等の地域住民とも協力しながら支援することで、困りごとを抱える高齢者やその家族が地域から取り残されることがないようにしていきます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価調査者記入欄</td><td>評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点</td><td colspan="2">家庭での引きこもりや精神障害を持つ困難なケースで、どこにも繋がっていなければ保健センターと連携して、必要に応じて医療・介護サービスに繋げています。圏域内の小・中学校とも連携し、地域の困りごとや気になることは情報提供や協力依頼を行い、各種関係機関との連携が図られています。また、ヤングケアラー支援への対応力向上のために、外部研修への参加を通して職員の意識の向上に努めています。</td></tr>
<tr><td>次のステップに向けた気づきや期待したい点</td><td colspan="2">地域包括支援センターの入る敷地内に児童センターが設置されており、今後、飾磨という地域性を活かし、色々な世代間との交流のできる新しい取り組みも期待したいです。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="7" colspan="2">評価項目・着眼点</td><td colspan="2">基本目標3：地域で暮らし続けるための支援の充実</td></tr>
<tr><td colspan="2">虚弱・軽度要介護者の重度化防止、自立支援のために、地域活動への参加など多様なサービスの活用を図ります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">①</td><td>多様なサービスの活用</td></tr>
<tr><td>地域の通いの場や多様な主体で展開される介護予防生活支援サービス、在宅医療・介護の連携体制及び認知症高齢者等への支援に係るサービス(地域支援事業)を効果的に活用する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td>地域活動への住民参加や支援体制整備のための取り組み</td></tr>
<tr><td>地域ケア会議推進事業、生活支援体制整備事業、通いの場の充実、認知症の人への支援などの取り組みを通して地域の支援体制の充実を図っていく。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">③</td><td>地域社会資源の開発とネットワークのための取り組み</td></tr>
<tr><td>高齢者が地域で暮らし続けるための社会資源を開拓していくとともに社会資源との連携が出来るようになる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">センター記入欄</td><td>取り組みの状況</td><td colspan="2">総合相談対応時や通いの場訪問時には、地域支えあい会議の該当ケースにならないかという視点を持ち、全職員で対応を行っています。民生委員から、地域支えあい会議の実施依頼がある場合もあり、タイムリーに関係者が話し合いを行うことの利点が周知されつつあります。担当校区の全校区で生活支援体制検討会議が開催されており、各校区の現状・課題に合わせた話し合いがすすんでいます。</td></tr>
<tr><td>現在課題と感じていること</td><td colspan="2">認知症状があっても、人の役に立ちたい・働きたいと意欲を持っている高齢者もいますが、高齢者自身の力を十分に発揮できる場がない現状があります。</td></tr>
<tr><td>目標達成のための今後の取り組み</td><td colspan="2">専門職の見守りや支援は必要ですが活動したいと望む高齢者の力を活かせる場について、地域の介護保険施設や生活支援体制検討会議での話し合いから社会資源を開拓していき、全ての高齢者が有する能力を活かして、いきいきと生活が出来るように取り組んで行きます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価調査者記入欄</td><td>評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点</td><td colspan="2">自治会や民生委員、安心サポーターの協力のもと、地域住民独自で認知症や高齢によりゴミ出しに困っている方のお手伝いをされる地域があるほか、地域包括支援センターと民生委員でお一人暮らしの方の情報共有を行い、早期の発見や課題解決に向けて取り組まれています。また、民生委員より、支え合い会議の開催の要望があれば、困難事例以外の小さな問題でも開催するように努められ、地域住民が安心して暮らし続けることのできる特徴的な体制づくりがみられました。</td></tr>
<tr><td>次のステップに向けた気づきや期待したい点</td><td colspan="2">地域で暮らし続けるための支援の充実には、地域包括支援センターだけではカバーしきれない部分が多いと感じられるため、引き続き、各種関係機関との連携体制の構築の継続に向けた取り組みに期待したいです。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="7">評価項目・着眼点</td><td colspan="3">基本目標4：認知症とともに暮らす地域の実現</td></tr>
<tr><td colspan="3">認知症は誰もがなりうるものであり、認知症になっても、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる共生社会を目指します。また、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防（認知症になるのを遅らせる。認知症になっても進行を緩やかにする）に関する取り組みを推進します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">①</td><td colspan="2">認知症にやさしい地域づくり</td></tr>
<tr><td colspan="2">認知症サポーターが地域で活躍できる機会の充実を図る。認知症の人本人が、自身の希望や必要としていること等を本人同士で語り合う場を設置する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td colspan="2">認知症になるのを遅らせるための取り組み</td></tr>
<tr><td colspan="2">高齢者が身近に通える場等の拡充。通いの場を活用し、認知機能低下がある人や、認知症の人に対して、早期発見・早期対応が行えるよう、医療機関とも連携した支援体制の整備。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">③</td><td colspan="2">認知症になっても地域で暮らし続けるための取り組み</td></tr>
<tr><td colspan="2">認知症の類型や進行段階、生活環境に応じた適時・適切な医療・介護に提供が出来るようになる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">センター記入欄</td><td>取り組みの状況</td><td colspan="2">いきいき百歳体操や認知症サロンでは、日付を忘れてしまう方でも参加し続けてもらえるように、元気な方が声掛けをして一緒に参加してもらうように啓発をしています。認知症サロンでの勉強会や窓口・訪問での相談対応時に、認知症ケアパスの啓発をして、認知症になっても地域で暮らし続けることができると伝えています。</td></tr>
<tr><td>現在課題と感じていること</td><td colspan="2">認知症になってから、地域の通いの場に参加し始める方は少なく、認知症の本人同士が語り合う機会が不足していると感じています。介護保険に繋がると地域住民との繋がりが薄くなるケースがあります。</td></tr>
<tr><td>目標達成のための今後の取り組み</td><td colspan="2">認知症の本人が語り合う場が不足していることについては、他地域包括支援センターや認知症疾患医療センターが実施している既存の集いの場に参加し、協力してそのような場所が展開できるように検討していきたいと思います。介護保険サービスにつながった後も地域での見守り等の継続的な支援が重要となることについて、認知症サロン等の機会を活用し地域住民と話し合いをしていきます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価調査者記入欄</td><td>評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点</td><td colspan="2">これまで活動してきた認知症サロンやいきいき百歳体操での認知症について啓発活動を行ってきた結果、地域の方からの情報提供や、ご自身が認知症への不安に気付き友人への相談により問題が発覚し、ご家族へのご協力をいただき受診に繋がるといったケースが増えていることから、地域での支え合いや認知症への考え方が向上している取り組みを確認することができました。</td></tr>
<tr><td>次のステップに向けた気づきや期待したい点</td><td colspan="2">認知症の人を支え支えられる関係づくりの支援のほか、認知症となっても活躍できる場所や居場所づくり、また、大好きな地域で暮らし続けることのできる新たな役割づくりや活躍の場を提供することのできる支援にも期待したいです。</td></tr>
</table>